

江幡太瓏先生選評



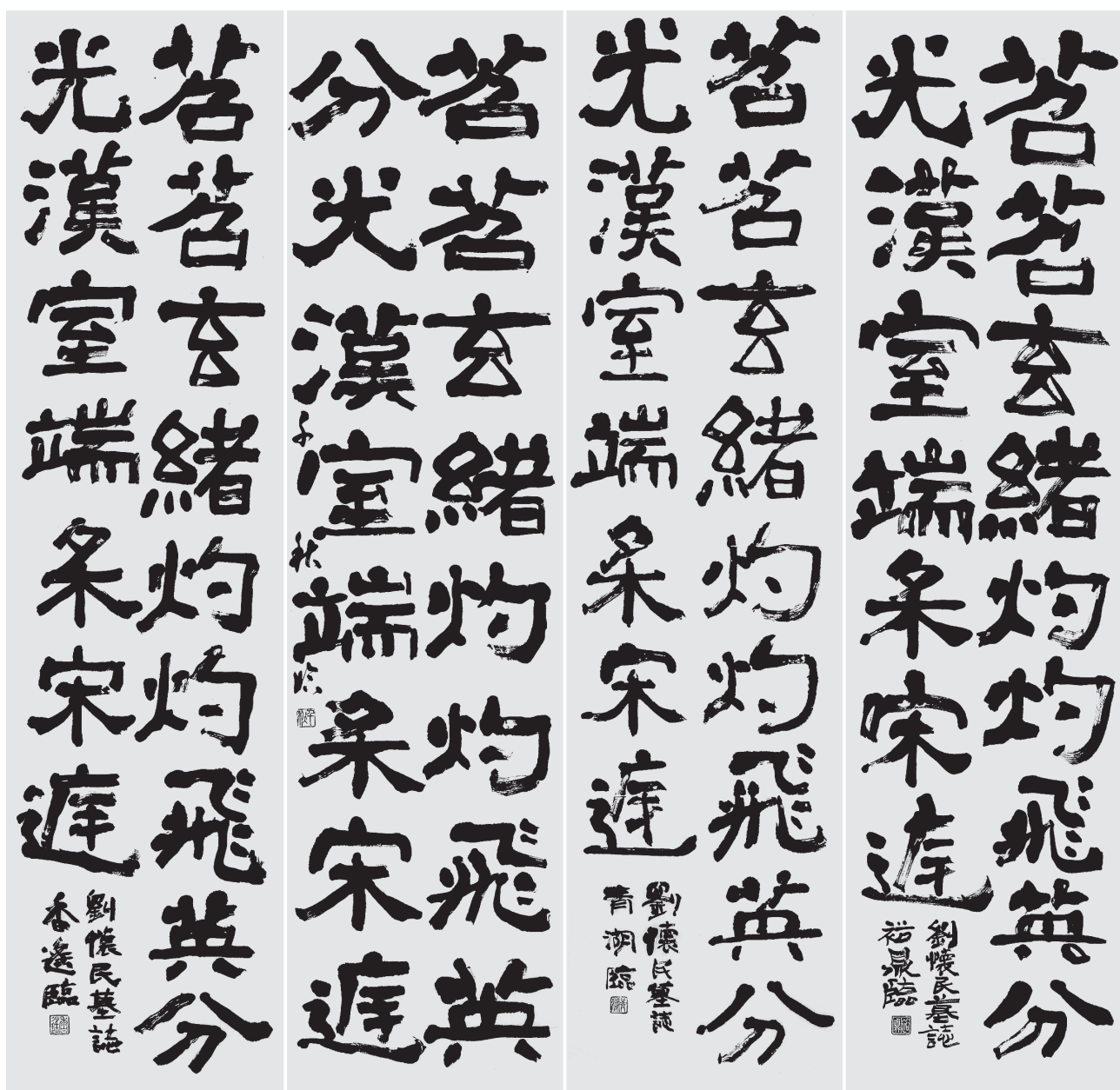
大村尚子 推選
前に線はいいが大人しい見
せ場が欲しいと評した気が
しますが別人のようだ。動
き大きく堂々たるもの。大
小太細メリハリあり線が生
き生きして白眉である。

三宅春華 推選
やや速めの側筆が目につく
が自由奔放気の向くまま筆
の向くまま実に楽しそうで
す。潤渇も見事で落筆高く
太細も良く動きの大きな作
です。落款すぎたか。

尾崎遥音 推選
「なり花」の渴筆、目を瞠
るものがあります。一行目
の後半にも墨が欲しかった
ですね。新字旧字の統一大
切です。一行目の仮名にも
太さが欲しかった。

白澤里奈 推選
何という「花」でしょう。釘
づけでした。一行目にも大
きい字が欲しかったかな。
そして「占」長すぎたので最
後詰まりましたね。でも魅
力ある作で選出しました。

伊藤漠仙先生選評



岡 本 裕 鼎 推選
おらかな、ゆつたりとした運筆に、肉厚な線質、素朴な文字の表情に温かさを感じます。潤渇の変化も自然で纏まっています。落款も良。

鷺 岡 青 湖 推選
参考作品を良く見て臨書されています。細線を上手く使いながら、余白を生かした品格のある筆致です。落ち着きのある結体が心の安らぎを与えます。

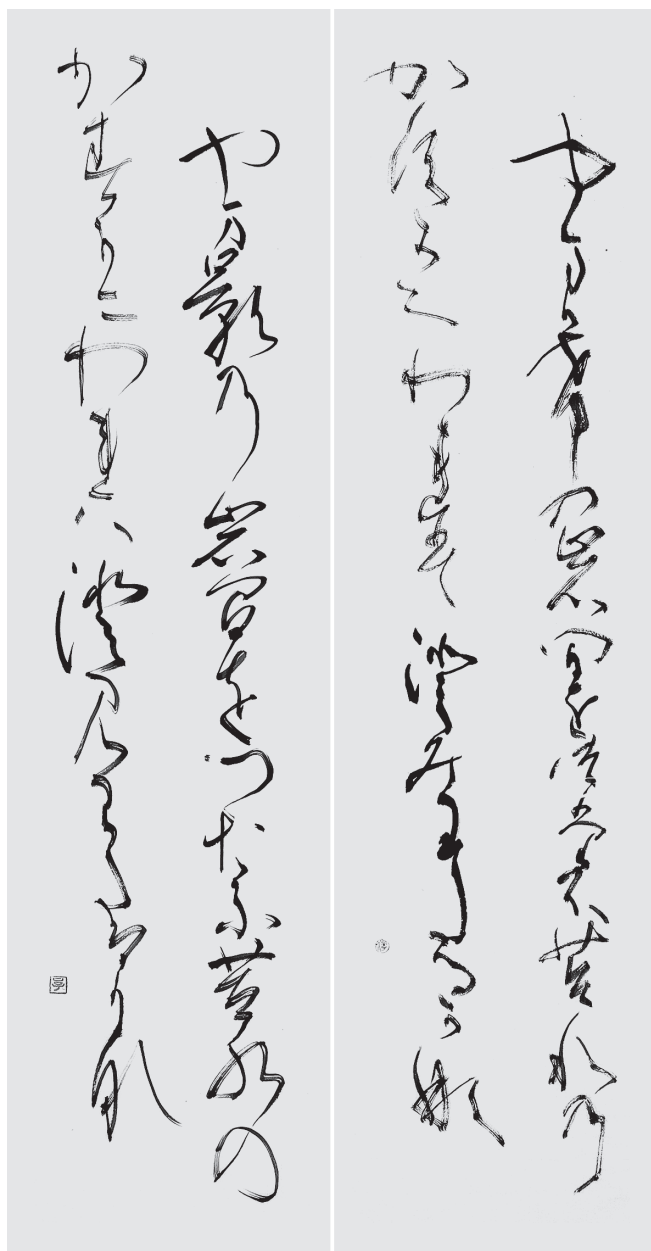
十 二 千 秋 推選
墨量多く直線的な筆意にしっくり用筆した逸品です。楷書ですが隸法を取り入れ、藏鋒も素晴らしいです。濃墨でメリハリのある明るい作品になりました。

小 野 寺 香 遙 推選
全体を直筆で書かれた劉懷民墓誌銘は、良く原帖の雰囲気をつかえていて、重厚感のある快作です。「茗」から落款に至る迄、一貫性のある書き振りで。

露崎桂子先生選評



佐賀道子先生選評



朝川姿帆 準六
原帖をよく学んで
いる丁寧な運筆に
気持ちのこもった
書作態度が窺えま
す。もう少しリス
ミカルな運筆が出
ると、勢いのある
作になるでしょう。

谷村やよい 準五
前半はリズムミカル
な運筆で纏められ
素敵ですが、後半
渴筆部分が少し苦
しくなり、惜しい。
全体的にもう少し
小さく書くこと、引
き締まり、佳に。

盛永睦子 準四
規定手本をよく捉
えて書かれていま
す。文字の細太あ
り、墨色の変化も
自然です。もう少
しリズムミカルさが
あると、さらに魅
力ある作に。

金子芳彩 師範
原帖の特徴の抑揚
に富んだ筆致をよ
く捉えて表現され
ています。墨量が
少ない部分に、や
や繊細さが出ると
爽快さのある作に
なるでしょう。

坂本千陽 師範
落ち着いた運筆で
安定感があります。
特に前半は、リス
ミカルな運筆で、
かならしい流麗さ
を感じます。後半
の行にややゆらぎ
があると、更に佳
い。

赤石静湖 準七
一文字一文字に動
きのある作。躍動
感のある楽しさを
感じますが、もう
少し一文字の中に
筆圧の変化、また、
墨色の変化がある
と奥行きある作に。

荒川京子 推選
文字やや大き目ですが、気
運大きくリズムミカルに精気
漲る作。文字の大小・振幅
をつけながら浮沈を利かせ
たよどみのない筆線は、爽
快で魅力的です。

泊出淳子 推選
紙面にキリリと落とし込ん
だ沈潜の筆線と文字のゆら
ぎ合いが、趣深く見事に効
を奏しています。響きの美
しい心惹かれる作としまし
た。

葛西玄涛先生選評



前田由美子 師範

すべての線に厚みを持たせて太いのだが、重くならず軽やかさすら感じる。次の線のことも考えた気遣いの動きから、美しく流暢となった。

金澤春陽 師範

字形は小さくても、大きな腕の動きから線を引かれていて、それぞれの文字が紙面から飛び出しそうな勢いがあります。作品制作の理想です。

梅本燐翠 準師

第一印象の他を圧する迫力は抜きんでています。じっくり鑑賞すると、細やかな動きの部分が多くあって、高度な多種の表現がなされています。

熊谷昂雪 八段

紙と筆が接したときに速い動きをして、鋭い線が多数生じた。偶然にできた線や渴筆と意図的な線を違和感なく操って、若さに溢れて爽快です。

中澤百合 七段

横画の右上がりや強く流れていても、文字は流されずに安定しています。筆圧を強めて、墨が紙に浸透するのを待った線と軽快な線が調和した。

鳥庭彩華 準二

まろやかな線で、優しい雰囲気。ゆったりした筆運びだけでなく、紙面から離れた空間での速さによる鋭い線が、柔剛の変化となって、楽しい。

立川幸恵 師範

横画の長い線だけでなく、短い線にもしっかりと深い蔵鋒がなされて、すべてが強い線となった。真剣に取り組む姿勢も加わり、迫力が満点である。

川邊理子 師範

波磔と右払いの沈む筆遣いでの厚みと、ゆっくりとした筆運びで、柔和な表現となった。横広な文字造形で、安定度を更に高める効果を発揮した。

荻崎道子 八段

線と線の間を広くとって、字内の空間に白を多くし、美しく明るい。丁寧に引かれた線は細めの直線で、特に横画は頑丈そうで、素朴な味わい。

志村肇遠 七段

隷書の横画を運筆の速度と圧力の変化で、豊かな表現をしています。肩から指先までの無駄な力みを減らして、腕の動きに滞りがなくようです。

江原未優音 準六

原帖の特徴を観察して、真摯に臨書しています。線をしつかり引こうという意識を強く持ちながらの運筆は、自然に色々な質の潤滑変化を作った。

山崎秀溪 初段

慎重な動きと速度を上げた活発な動きが変化のある線となって、明るく楽しい。字形で表現し幅を出さず、線の変化で深い表現を求めた玄人肌。